

在シドニー総領事通信

第 54 回 Japanaroo+から日豪首脳テレビ会談へ

令和 4 年（2022 年）1 月 12 日

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

当地では昨年末からコロナ感染者数が急増していますが、年末年始はどのように過ごされましたか？豪州では高いワクチン接種率を背景に、今回のオミクロン株流行に対しては、規制を最少限にとどめて感染の「波に乗る」政策を取っています。NSW 州政府が発表したモデルによれば、1 月中にピークを迎えるとのこと。日常生活は続けながらも、感染には十分ご注意ください。

私は、先月 Japanaroo+の多くの行事に参加させていただいた後、息をつく間もなく、年末年始は岸田総理のシドニー訪問の準備に当たりました。残念ながら、年始に日本でオミクロン株が急増する中で訪問自体は見合わされることになりましたが、1 月 6 日に日豪首脳テレビ会談が行われ、日豪円滑化協定が署名されました。前回の総領事通信から、あっという間に 1 か月半が過ぎました。

今回の総領事通信では、Japanaroo+と日豪首脳テレビ会談について皆様にご報告し、これを受けて、本年どのような活動を進めていくべきか、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。



草月生け花展（12月4日）、裏千家茶道（12月9日）、
シドニー弓道会（12月19日）、日本舞踊（12月19日）

●日本の伝統文化の豪州での広がり

Japanaroo+は、12月3日（金）から19日（日）までシドニー中心に開催されました。一連の対面行事に参加して改めて感じたのは、在留邦人のみならず多くの豪州人が、日本の様々な伝統文化を楽しみ、生活の一部としていることです。

開始翌日の4日（土）からシドニー王立植物園で開催された草月生け花展では、戦後日本で生け花を学び、1950年代末に豪州に戻って生け花を普及させたノーマン・スパーノン氏について、同氏から直接習った豪州人からお話を伺いました。

翌週末の12日（日）、ブルーマウンテンズ市で裏千家シドニー支部が開催した茶道ワークショップにお招きいただき、同市の姉妹都市委員会や環境保護団体の方と一緒に、豪州人の茶道師範から茶道の意義や作法を学びました。

Japanaroo+最終日の19日（日）は、シドニー弓道会のデモンストレーションを視察し、全員が豪州人だったことに強い印象を受けました。同日の日本舞踊ワークショップにも、日本に行ったので関心を持ったという豪州人が参加していて、当地での日本文化の浸透振りを改めて感じました。



福岡県試食イベント（12月13日）、北海道BBQ（12月12日）、
Japan Expo 佐賀県ブース（12月17日）、日本祭りのたこ焼き（12月18日）

●日本の食文化の普及

今回の Japanaroo+では、日本の食文化の普及が、全国各地の食の魅力をアピールする段階に来ていることも感じました。多くの豪州人にとって日本が身近な存在となり、地方の観光や食にも目を向けるようになってきているのです。

福岡県は Flavours of Fukuoka というキャンペーンを市内レストランで展開しました。Gogyo Surry Hills で開かれた試食イベントでは、福岡料理と日本酒の良さを政府やメディア関係者が堪能していました。

JTB は、北海道 BBQ と銘打って、ジンギスカン料理と北海道の観光名所を紹介する行事を市内の居酒屋で開催し、満席の大好評でした。

その他、名古屋市や沖縄県も、それぞれの食文化を紹介する行事を Japanaroo+ の一環として開催しました。また、Japan Expo や日本祭りでも、佐賀県、徳島県、山梨県が日本酒やジュースなどのプロモーションを行っていました。

今回、総領事館でも、Japanaroo+ Opening Night で佐伯公邸料理人が抹茶ロールケーキの作り方を披露させていただきました（[動画](#)）。



後藤氏・ラズボーン氏コンサート（12月6日）、
NSW 州立美術館日本講演会（12月9日）、ケン・ドーンと日本展（12月17日）、
Akira ファミリーセール（12月18日）

●日豪を超えて活躍する芸術家・文化人

この Japanaroo+の機会に、当地で日豪を超えて活躍する芸術家や文化人になるべく知っていただこうと声をかけて、様々な行事を開催することができました。

12月6日（月）には、オーストラリア室内管弦楽団（ACO）で長年活躍しているバイオリン奏者の後藤和子（あいこ）氏とヘレナ・ラスボーン氏を総領事公邸に招き、コンサートを開催して Instagram でライブ配信しました。シドニー日本人国際学校の生徒・保護者・先生方も公邸に招き、演奏を聴いていただきました。

9日（木）には、NSW 州立美術館で、メラニー・イーストバーン学芸員による講演会が開催されました。1879年のシドニー万国博覧会から現在まで同美術館が所蔵する日本美術を包括的に紹介する内容で、貴重なお話を伺いました。

13日（月）の週は、日本では雑誌 Hanako の表紙絵で広く知られるケン・ドーン氏が、ロックスにある同氏のギャラリーで「ケン・ドーンと日本」展を開催しました。17日（金）には山上大使夫妻も同展に訪れてケン・ドーン氏と会い、同氏の日本との長年の深い関わりや様々な思い出に耳を傾けていました。

当地で成功したファッションデザイナーの五十川明氏は、Japanaroo の趣旨に賛同して、Akira ファミリーセールの際に Akira オリジナル Japanaroo T シャツを制作いただきました。赤と黒のおしゃれなデザインで、私も 1 枚買いました！



Japan Expo の WABORI、Japanaroo Festive Season Concert (12 月 17 日)、
日本祭りでの鏡開き、太鼓演奏と縁日 (12 月 18 日)

● 「日本祭り」から「日豪共創」への発展

12 月 17 日 (金) にはシドニー中心部のタウンホールで Japan Expo、Gambare Concert、Japanaroo Festive Season Concert の一連の行事が開催され、翌 18 日 (土) にはチャッツウッド・モールで日本祭りが開催されました。山上大使も多くの行事に出席し、[「南半球便り \(その 50\) : 『ジャパナルー2021』 \(日本祭り\)」](#) に所感を記しています。

シドニーでの伝統になっている日本祭りは、2019 年 12 月のダーリングハーバー以来 2 年振りで、好天にも恵まれ大盛況でした。今回はそれに加えて、Japanaroo イニシアティブの一環として、日豪共創をテーマにしたコンサート、更に文化・食・観光を結びつける Expo が、市内中心部のタウンホールで初めて開催されました。「日本祭り」を基盤に「日豪共創」へと大きく発展したと感じています。

津軽三味線とディジリドゥーの協奏。先住民美術の模様の着物。日本文化を発信するだけでなく、日本が豪州と一緒に新たな価値を生み出していく試みこそ、日豪間の理解と協力を一層深めるものと考えています。



Japanaroo+ Opening Night (12月3日)、JETAANSW 写真展 (12月8日)、
Japanaroo プラットフォーム月例会合 (3月19日)、
Japanaroo タスクチーム反省会 (12月21日)

● 「日豪コミュニティ」の形成に向けて

1年以上前に官民連携のイニシアティブとして検討を始めた日本文化行事 Japanaroo がこれで終わりました。日本文化・観光・ビジネスや日豪交流に関係する幅広い官民主要団体・企業が運営に参画し、50以上の団体が初めて連携して同時期に行事を開催することで、当地における日本の存在感を高めることができました。この枠組の運営を担ったパートナー、そして行事の調整や広報に当たったタスクチームの皆様から心から感謝申し上げます。

今回の成果を基盤に、当地の日本・日豪交流団体や企業が、日豪の相互理解と交流の深化と発展という大きな共通の目的に向かってベクトルを合わせ、既存の枠を超えて出会い協力・共創する「日豪コミュニティ」が生まれれば嬉しく思います。

Japanaroo+が終わった翌週に、タスクチームで反省会を開き、今回の成果と課題について意見交換を行いました。本年は、9月2日（金）のオペラハウスでのコンサートや9月10日（土）のチャッツウッド日本祭りを軸に Japanaroo 2022 を開催する可能性など、今回の教訓と反省やコロナの状況を踏まえ、今後の方向性を検討していければ幸いです。



●日豪首脳テレビ会談

その後、息をつく間もなく、年末年始は岸田総理のシドニー訪問の準備に全館体制で当たることになりました。冒頭にお伝えしたとおり、年始に日本でオミクロン株が急増する中で訪問自体は見合せされることになりましたが、1月6日に日豪首脳テレビ会談が行われ、日豪円滑化協定が署名されました。経緯は山上駐豪大使が「[南半球便り（その51）：日豪首脳会談](#)」で述べているとおりです。

シドニーでの対面の日豪首脳会談は実現しませんでしたでしたが、今回の日豪首脳テレビ会談では、安全保障のみならず、経済面でも進展がありました。両首脳は、西シドニー開発など、官民一体で日豪経済関係を発展させていくことを確認するとともに、アジアのエネルギー移行を加速させ、水素事業での協力など脱炭素化の協力を推進していくことで一致しました。今後、当地で日豪ビジネス協力を具体化していく上で、今回の会談の成果は大きな力になります。



シドニー市中心部（2022年1月1日）

●本年もトップダウンとボトムアップを後押し

年末年始はノンストップで休みがなかったので、今ようやく先月からの動きを振り返り、本年の計画を立てているところです。

幸い、新年早々の日豪首脳テレビ会談で、日豪協力を進める大きな方向性と優先課題が示されました。西シドニー開発、水素事業をはじめとする脱炭素化、重要技術の協力やサプライチェーンの強靱化など経済安全保障の取組強化、宇宙やサイバー等の新領域についての協力拡大など、ビジネスを中心にシドニーで取り組むべき課題は多々あります。

他方、先月の Japanaroo+では、コロナ後に向けて日豪交流が大きく発展する可能性を感じました。長年の「日本祭り」の伝統を基盤に、「日豪共創」に向けて官民の新たなアクターや次世代を取り込み、文化・食・観光・地方・ビジネスを結びつけることで、豪州社会における日本の存在感を更に高めることができるように思います。

総領事館としてできることは、そのような皆様の活動の「後押し」です。新たな時代を見据えて当地での方向性を示し、トップダウンとボトムアップの動きを後押しすることで、日豪と世界の平和と発展を現実化していきたいと思います。本年もよろしく願いいたします。

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦

(以上)